

平成22年度
第1回石狩市健康づくり推進協議会保健医療対策専門部会

日 時 平成22年7月14日(水) 19時30分開会
場 所 石狩市役所5F 第1委員会室
出席者 【委員】我妻部会長・立石委員・竹内委員・鎌田委員
【事務局】大林室長・我妻課長・中川主査・岩本主査
傍聴者 2名
議 題 任意予防接種の公費助成について
配布資料 別添のとおり

1. 開会

大林室長: それでは、只今より、「平成22年度第1回石狩市健康づくり推進協議会保健医療対策専門部会」を開会いたします。

始めに、我妻部会長より、ご挨拶をいただき、引続き議事の進行をお願いします。

2. 部会長挨拶・議事

我妻部会長: それでは、推進協議会のあとですけれども、保健医療対策専門部会を始めたいと思います。

本日は、市の方からこの専門部会に委託されました任意予防接種の公費助成ということについて、少しお話をしたいと思っておりますが、事務局の方から、今日はまだ初めての専門部会でこれから協議ということなんですけれども、まず事務局からいろいろな公費助成についての経緯、考え方なんかを説明してもらって、それをたたき台にして今後考えていきたいと思っておりますので、早速事務局からの説明をお願いいたします。

我妻課長: それでは、私からご説明をさせていただきます。

先ほどの推進協議会において、本専門部会の設置の趣旨につきまして述べさせていただきましたが、今回は「任意予防接種の公費助成について」を議題とさせていただきます。

全国的にも任意接種の公費助成を求める要望というのは高くなっておりまして、本市といたしましても早急に検討すべき課題として捉えているところでございますので、本市が独自に助成すべき任意接種につきまして、本専門部会において専門的な見地からご提言をいただければと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

本日の資料につきましては、資料1から3まで一括してご説明させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

資料1をお開きください。

「任意の予防接種等一覧」でございますが、こちらにはすべての任意予防接種を載せてはございませんが、市民などから要望等のありましたものについて記載しております。この

中で、今回は助成対象といたしまして、ヒブ・子宮頸がん・肺炎球菌（7価）・水痘・流行性耳下腺炎の中から、その優先度をご検討いただきたいと考えておりますので、この5つにつきましてご説明申し上げます。

まず、ヒブについてでございますが、市議会や婦人団体などからの要望が市に寄せられておりまして、発生率は低いですが、罹患すると重症化しやすく、初期の診断がつきにくいという状況がございます。また、WHO（世界保健機関）では世界全ての地域に向けて定期接種化を勧告しております。全国的な公費助成状況では、今年の3月時点で11.7%（204市区町村1727）の市町村で何らかの助成が行われております。有効性・安全性に関しては、世界の多くの国で使用されておりまして、その効果は実証済みであります。

次に、子宮頸がんでございますが、市議会で要望があったところであり、がんのなかで、唯一、ワクチンと検診で防ぐことができるがんと言われております。子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の持続感染が原因で発症しますが、このワクチンは罹患率そのものを低減させ、検診は早期発見・早期治療による死亡率の低減をもたらします。小学生・中学生を対象にしますことから、実施にあたっての周知については、丁寧な説明と配慮が必要だと考えられます。昨年の末に発売されたばかりですが、全国的に公費助成の動きが活発化しておりまして、6月時点で6.5%（114市区町村）の市町村で助成措置がなされております。

次に、肺炎球菌（7価）ワクチンでございますが、小児肺炎球菌ワクチンは世界の約100カ国で承認され、すでに41カ国で定期接種に導入されているワクチンです。ヒブワクチンと同時接種をすることで、細菌性髄膜炎予防に非常に有効です。極めて安全性が高く、効果が高いワクチンとされております。このワクチンもWHOが最重要ワクチンの一つとして、低開発国を含めてすべての国で、国の定期接種にすべきだと勧告しているものです。病気が重だけでなく、早期診断が難しいという状況がございます。こちらの公費助成の状況といたしましては、3月時点で0.6%（11市区町村）となっております。

次に、水痘（水ぼうそう）でございますが、ウイルスによって起こる病気です。多くの場合、それほど重くなりませんが、無視できない数の子どもたちが重症になる病気です。感染力も麻疹（はしか）と同じくらい強いものですが、ワクチンの有効性については国内外で確認済みであります。全国的な公費助成の状況については、3月時点で3.3%（59市区町村）が何らかの助成を行っております。

最後に、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ですが、ウイルスによる感染症です。耳下腺、顎下腺の腫れと発熱が主な症状で、2 - 9歳の頃にかかることが多く、3 - 4歳が最多です。潜伏期間は2 - 3週間で、耳下腺が腫れる7日前から9日後くらいの間は、人にうつす可能性があります。学校伝染病のひとつに指定されており、耳下腺の腫れが消えるまでは、登校・登園が禁止になります。ワクチンの有効性は確認されておりますが、副反応の重要なものとして無菌性髄膜炎の発生があるとされております。公費助成の全国的な状況としては、3月時点で3.5%（61市区町村）となっております。

続きまして、資料2でございますが、こちらは、部会の中での議論を行うにあたって、あ

らかじめ各委員のお考えをお聞きして、それを事務局でとりまとめて整理した上で、次回の部会に資料として提出させていただくための、意見書でございます。

各ワクチンごとに、各委員のご見解を記入いただき、最後に一番右端の列に公費助成の優先度が高い順から1から5の番号を記入願えればと考えております。

併せて、2項目目といたしまして、この5つのワクチン以外で、さらに公費助成の必要性があるとお考えのものがあればご記入をお願いいたします。

最後に、資料3でございますが、こちらは、今年の5月1日現在で任意予防接種の公費助成を実施している道内市町村の状況をまとめたものでございます。

表紙を見ていただきますと、一覧表でそれぞれのワクチンごとの実施市町村数が載っております。ヒブについては34、小児肺炎球菌は6、おたふくかぜは16、水痘は16、子宮頸がんは4となっております。子宮頸がんに関しましては、先週土曜日の新聞報道によりますと、4月以降急激に増えまして13市町村との情報も入っております。

資料の内容につきましては、それぞれのワクチンごとに、実施市町村名・全額負担か一部負担か・対象年齢・対象回数・負担金額等・開始時期が載っておりますので、ご参照いただきたいと存じます。

私からの説明は、以上です。

我妻部会長:事務局の方から公費負担のワクチンに関するお話をしていただきました。この公費助成のことにしましては、今年の確か3月でしたか、竹内先生とか、市の保健師さんとか、それから保育所なんかの園長先生たちが集まって予防接種に関する懇話会というのを一度開きました。

そのときに、いまのような説明をいろいろ市からも受けましたし、小児科の立場から僕もいろいろ意見を言いました。保育所、それから幼稚園の担当の先生たちからの話とかもいろいろありまして、それからワクチン全体の任意接種でやる金額ですね。いま、かなりヒブにしても肺炎球菌にしても子宮頸がんにしても高い。1回あたりのワクチンの金額が1万円近くするとか、それを3回4回しなきゃいけないとかということで、かなり金額が張るといことが、そのときの懇談会でも話題になっていました。

保育園、幼稚園の園長さんたちの話、それからある程度、家族というかお母さんたちの意見というようなことも、少し話に出ました。そのときは水痘ワクチンであるとかおたふくかぜワクチンなんか、本当であればもっともっと、実際いま疾患としてけっこう流行っていたものですから、そういうようなところに助成があれば、実際的な公費の助成だっという印象があるというような意見があったかと思いました。

このことに関しては、先ほど事務局からも言われましたけれども、資料2のこの各委員の助成に関する意見書、これをある程度たたき台にして今後2回目の会議のときに話し合いを進めていきたいと思っておりますけれども。

今日このあとに関しては、一応いま提出されたものを、事務局からのいろいろな、ワクチンに関する現在いろんな市町村でやっている問題、それから任意接種の要望先ですね。

議会であったり、小児科の医者であったり、婦人科医であったりというような場所の要望。

こんなことを踏まえて、意見書を提出していただいて、それをたたき台にして2回目の部会を開きたいと思います。

それで、先ほどからもちょっと意見として事務局から出ていたのですけれども、ヒブワクチンであったり、子宮頸がんワクチンであったり、議会のほうからも要望があることに関して、もしできるのであれば今年度中にできるかどうかということも、現実にあるものですから、この会議の意見の取りまとめは、予算の関係から9月までにはある程度の方向を出して提言したいと思いますので、この意見書に関しては7月の末、7月の28日までに一応事務局の方へファックスで提出していただきたいと思います。

それで部会に関しては、8月上旬に2回目を開きたいと思いますので、それは事務局の方で今後日程を各委員との調整よろしくをお願いします。

一応こういうようなことでこの先の会議の進め方、それから公費助成に関する意見なんか今後作っていただいて、2回目の8月上旬の会議である程度の方向性を決めたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

何か他にご意見ございましたらお願いします。

無いようでしたら一応そういうような方向で意見書を作成願います。

あと事務局の方から何かありますか。

我妻課長:いかがでしょうか、こういうような資料が欲しいとか必要だということであれば、用意させていただきますが。

我妻部会長:それでは、意見書を書くにあたって何か必要な資料があれば、今日は14日ですから、2週間まだありますので、1週間以内に事務局の方に、こういう資料を探してもらえないかというようなものがありましたら、お願いします。

来週の水曜日ぐらいまでには、できれば資料がそろえば、1週間考えられると思います。

そんな感じでもし必要なものがあれば、事務局の方に連絡をとっていただきたいと思ます。

立石委員:よろしいですか。対象者の石狩市の人数を知りたいのですけれど。

子宮頸がん、いわゆるどこから何歳から何歳まで対象にするのか、その資料をいただけたら、何かイメージが掴めます。

我妻課長:人口構造で、1歳きざみで出ているのがございますので、そちらでよろしいでしょうか。

立石委員:そうするとたとえばこの場合、13歳から何歳まで打つかわかりませんが、それでやってみて一番最初スタートはちょっと大きいかもしれんけど、あとは1年ずつっていうことになると思うんですよ。何かイメージがあるといいですけども。

我妻部会長:それは子宮頸がんに関しても、乳幼児の出生率っていいですか、出生数ですよね。そんなようなものもあれば、ですよ。

我妻課長:今年の4月1日現在の石狩市の人口構造表というのが1歳きざみでございますので、そちらについては送らせていただきます。

我妻部会長:それをお願いします。あと他にございますか。

竹内委員:あとちょっと確認だけしたいのですけれども、市の感染症予防の計画というのは、事業計画以外に何かあるのでしょうか。感染症に関して記載されたものが。

我妻課長:特にございません。

竹内委員:予防接種をいつ何々をやるという事業計画だけが存在していて、あまり方針的なものは、市としてはいまの段階ではないということ。まっさらな状態で、公費のことを考えればいいという感じですか、我々は。

事務局:はい。

我妻部会長:今回の公費負担に関することに関しては、インフルエンザワクチンに関しては入っていないということですね。

事務局:はい。

我妻部会長:分かりました。それでは、そういうことで次回の会議の8月上旬までに意見書の作成を各委員の先生方よろしくお願いいたします。

それではあと何かご意見ございませんか。

それでは、次回8月に向けてよろしくお願いいたします。今日はこれで第1回目の部会を終了させていただきたいと思っております。どうもご苦労さまでした。

平成22年8月12日 議事録確定

石狩市健康づくり推進協議会
保健医療対策専門部会
部会長 我妻浩治